平成31年度 池袋第一小学校 道徳科研究構想図

【新学習指導要領:特別の教科 道徳】

- ○道徳的諸価値の理解
- ○自己を見つめる
- ○物事を多面的・多角的に考える
- ○自己の生き方についての考えを深め

【東京都教育委員会教育目標・ 東京都教育ビジョン】

○豊かな心を育て、生命や人権を尊重 する態度を育む教育

【豊島区教育ビジョン 2015】

○豊かな人間性と規範意識の育成

【ISS(インターナショナル・ セーフ・スクール)への取組】

○「心のケガ防止」への取組 →思いやりの心の育成

【学校教育目標】

- ○生かせ学び
- ○健康増進
- ○一途な夢
- ◎地球人の優しさ

【「地球人の優しさ」の具現化】

- ・気持ちの良いあいさつができる。
- ・仲良く助け合う。
- ・相手の立場や気持ちを考える。
- ・認め合い、助け合い、励まし合
- ・進んで人のために奉仕する。
- ・場に応じた言葉遣いや態度ができ
- ・物や生き物を大切にする。

【児童の実態】

昨年度の校内研究における

成果(○)と課題(●)

- ○自分事として考え、自分の考えをもつこ とができる児童が増えた。
- ○友達の考えを聞き、多面的・多角的に考え られる児童が増えた。
- ○授業スタイルの確立により、「自分と向き 合う」という道徳の特性を児童がきちんと 理解し始めた。
- 一定の議論の形ができつつあるが、議論の 場面での児童の発言の差が大きい。
- ●友達の考えを聞いて、自分の考えに取り入 れるまでには至らなかった。
- ●発達段階に応じて、自分の内面を見つめ直 せるような働きかけが必要。

研究主題

「豊かな心を育み、共によりよく生きようとする児童の育成」 ~自己の内面を見つめ、考えを深める道徳科の指導方法の工夫~

<目指す児童像>

自己の内面を見つめ、考えを深められるような児童

中学年分科会 高学年分科会 ①自分の経験に沿った意見をもつこ ①経験を振り返りながら考えられる。 ②他者の思いをふまえ、自分の考えを 再構築できる。

低学年分科会 1年①自分の考えをもつことができ

- 2年①自分の気持ちや変化に気付く ことができる。
 - ②自分と友達の考えの違いに気 付き、話し合いができる。

とができる。

②他者の考えを受け止めたり、共感し たり、違いに気付いたりすることが できる。

【研究仮説】

教師が指導観を明確にもち、発問構成を工夫していくことで、

自己の内面を見つめ、考えを深められるような児童に育つのではないか。

究の視点(1*)* 「自己を見つめさせる 学習活動の工夫」 研究の視点(1)

上大前提→指導観の明確化(児童のよさと課題を明 確にし、児童にどのようなことを考えさ せたいのかを明確にする。

- ①発問構成の工夫
 - →明確な指導観を受け、「学習問題の設定(問 題意識をもたせる) →中心発問→見つめ直 す発問」の流れを作る。
- ②書く活動の工夫

研究の視点(2) 「考えを深めるための

話合い活動の充実Ⅰ

- ①意図を明確にした話合い活動(ペ ア、小グループ、全体)
 - →多面的・多角的に考えさせる。 (昨年度の研究を生かす)
- ②板書の工夫
 - →児童の思考を板書で整理する。

研究の視点(3) 「評価の工夫」

- ①評価の観点の明確化
 - →「児童の学習活動か ら見た学びの姿」や 「本時における具体 的な発言や行動」を 指導案の中で明確に していく。